



CFTC建玉報告:円/ドル、ユーロ/ドル(10月9日時点)

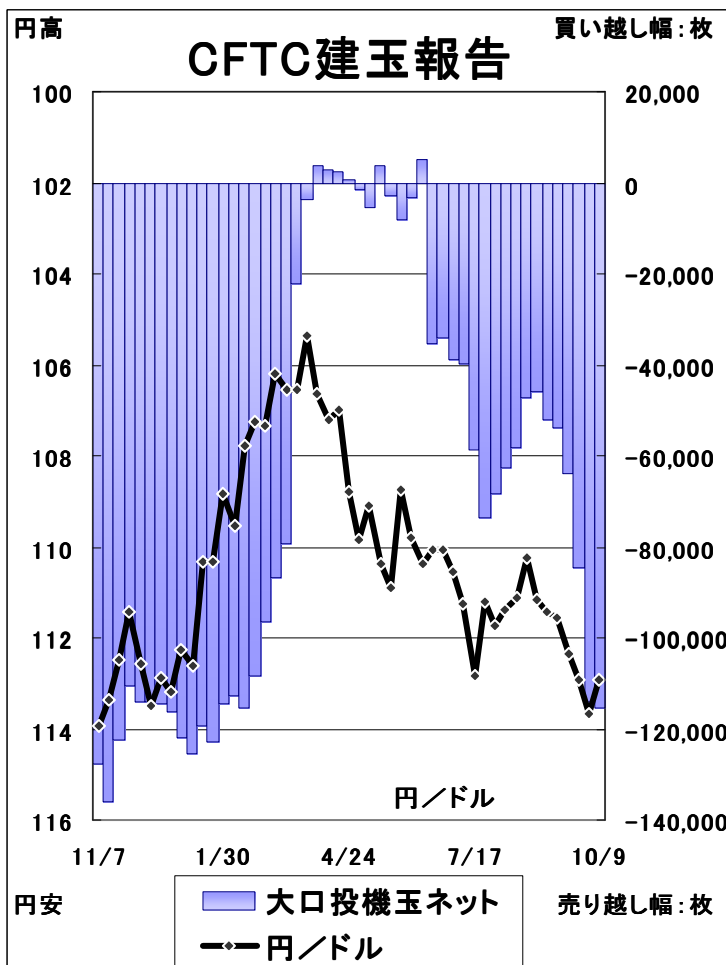
米商品先物取引委員会(CFTC)が10月5日に発表した建玉報告によると、2日時点のシカゴ・マーカンタイル取引所(CME)IMM通貨先物円(対ドル)相場の大口投機筋(非商業部門)の売越幅は、11万5201枚となり、前週比1155枚拡大。投機筋は売り買い共にポジションを減らし、売りポジションをより多く減らしていた。

期間中の円(対ドル)は上伸。米労働省が5日に発表した9月の雇用統計は、失業率が3.7%と前月(3.9%)から大きく改善し、1969年12月(3.5%)以来48年9カ月ぶりの低水準を記録。景気動向を反映する非農業部門の就業者数は前月比13万4000人増と、市場予想を下回ったものの、過去2カ月分については上方修正された。これを受けて、発表後はいったんドルが買われ、円相場は一時114円08銭に下落したが、その直後に切り返した。また、大型連休明けの中国市場で株価が急落。イタリアの財政不安も再燃し、欧州の主要株価指数は軒並み軟調となった。リスク回避気分に加え、ここ最近の円安進行に対する過熱感も円買いにつながった。ドルも対円では軟調だったものの、他の主要通貨に対しては強含んでいた。

期間中のユーロ(対ドル)は下落。大口投機玉の売越幅は、1万6142枚となり、前週比9041枚拡大。

米雇用統計直後にドル買いユーロ売りが進行したことで下落した後に一時買い戻されたが、イタリアの財政問題に対する警戒感から売りが継続し対円、対ドルで下落した。欧州中央銀行(ECB)の主要メンバーが来年1月に利上げのタイミングに関する討議を開始する必要があるが、結論は未知数との見解を示していることも、欧米の金利差の拡大観測を背景としたドル買いユーロ売りが進行する要因となっている。

日付	円/ドル		ユーロ/ドル	
	終値	枚数	終値	枚数
06/12	110.38	5,052	1.1744	88,225
06/19	110.08	-35,562	1.1588	36,118
06/26	110.07	-34,221	1.1646	33,904
07/03	110.57	-38,730	1.1658	36,747
07/10	111.26	-39,832	1.1747	24,357
07/17	112.85	-58,650	1.1662	21,407
07/24	111.19	-73,769	1.1682	29,640
07/31	111.75	-68,457	1.1696	22,825
08/07	111.37	-62,807	1.1598	10,565
08/14	111.14	-58,368	1.1343	-1,789
08/21	110.22	-47,406	1.1571	-4,841
08/28	111.17	-46,041	1.1694	-7,219
09/04	111.45	-51,932	1.1582	7,963
09/11	111.56	-53,886	1.1606	11,170
09/18	112.33	-63,755	1.1667	1,666
09/25	112.94	-84,719	1.1766	3,696
10/02	113.65	-114,046	1.1546	-7,101
10/09	112.94	-115,201	1.1493	-16,142
前週比	-0.71	-1,155	-0.0053	-9,041



第一商品株式会社 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町9番1号 神泉プレイスビル フューチャーズ・24

このレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので投資勧誘を意図するものではありません。投資の最終的な決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い致します。レポートに記載の内容等は作成時点のものであり、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく修正、変更されることがあります。商品先物取引業者 日本商品先物取引協会会員 当社お客様相談窓口(東京・本社) 0120-770-266、日本商品先物取引協会相談センター東京本部 03-3664-6243。